



チマッティ神父を慕っておられる皆さん、クリスマスと新年のお祝いを申し上げます。神のお恵みが皆さんの上にありますように。共に元気で新年を迎えることができたことを神に感謝いたします。神に召された友達の永遠の安息を祈りながら、有意義に余生を過ごせることを願い、チマッティ神父の運動を推進していきたいと思えます。

「よく働くチマッティ神父」カレンダー

2009年カレンダーをお送りいたします。よく働くことは、チマッティ神父の一つの特徴でした。「仕事は、心身とも健康にする」と師は言っていました。これは正しい目的で節度を守って働く時に言えることです。「過労死」という言葉があるほど、間違っ

て働いている人がいます。カレンダーの写真に添えてあるチマッティ神父の言葉は仕事の意味を考えさせてくれます。このカレンダーをお友達にも贈りたい方は、資料館に追加部数をご注文ください。今年は、チマッティ神父の信奉者が増えたので、このカレンダーと新しい「チマッティ伝」をイタリアでも出版しました。

調布教会新聖堂の落成式

7月12日、調布に新名所が誕生しました。チマッティ神父の念願だった新聖堂です。献堂式は東京教区ベトロ岡田武夫大司教によって行われました。場所は、正門から入って左側、チマッティ神父が1959年に小聖堂を建てた場所です。内部も外部も明るい雰囲気がかもし出し、音響もよく、祈りやすい聖堂です。チマッティ神父は天国から喜んでおられるでしょう。



25周年の資料館

資料館建設25周年にあたって整理と充実が進みました。まず、チマッティ神父が日本サレジオ会事業の責任者だった1949年までドン・ボスコ社が出した出版物を揃えて展示しました。難しい時代にもかかわらず出版事業を重視した師の努力に驚きます。手に入らない本が多いので持ち出し禁止ですが、閲覧はできます。また、1934年、ドン・ボスコが列聖された年にイタリアの画家カファロ・ロレ氏が描いた美しい絵画も資料館に寄贈され、お墓に下りる階段に飾られることになりました。



オラトリオ『アブラハム』上演

10月5日、新聖堂でのチマッティ記念コンサートで、ちょうど100年前、1908年に作曲されたオラトリオ『アブラハム』が上演されました。聖書の創世記にあるアブラハムの物語を三部で描くものです。「召命」の部はアブラハムが神に呼ばれる場面、「司祭職」の部は戦いに勝って祭司メルキセデクが神にパンとぶどう酒を

供える場面、「いけにえ」の部は愛する子イサクを捧げようとする場面です。ソリスト6名とコーラスのすばらしい演奏は観客の皆さんに深い感銘を与えました。来年の予定は、福音書に出てくる癒しの奇跡を二幕で描く同じ1908年作曲のオペレッタ『エリコの盲人』です。



CD「チマッティ神父—その声と技—」

同じ10月5日、新しいCDが発売されました。生前録音された師の音楽のすべてです。特に、最近まで知られていなかった1959年2月12日、調布の神学生が日本語で上演したオペレッタ『エリコの盲人』を80歳の師が50分ほど即興でピアノで弾き、録音されたものを紹介します。歴史に残るべき貴重な永久保存の資料です。録音されたチマッティ神父の生のピアノ伴奏と歌声が、すべてこのCDに収録されています。



「エリコの盲人」役を演じる中垣神父（1959年）



チマッティ神父の自叙伝

これは初耳でしょうが、本当です。ただし、今のところイタリア語だけです。実は資料館に6000通以上の師の手紙があり、一年前インターネットにすべてが掲載されました。ほとんど毎日、戦前、戦中、戦後の豊富な情報が含まれています。イタリア語を読める人でも、はたしてこれほどの膨大な量の文献を全部読む人は

何人いるのでしょうか。そう思って、手紙を抜粋してチマッティ神父自身の言葉でその伝記をまとめることにしました。7月ごろから仕事にかかり、戦前の第一巻はほとんど完成しました。まずイタリア語で出版し、続いて早く日本語に訳したいと思います。

聖イグナチオ教会で聖骸布展

コンプリ神父はあいかわらず聖骸布に熱心です。今年3月2日から16日まで四谷駅前の聖イグナチオ教会の大ホールで聖骸布の写真展を開き、10回ほど講演し、約5千人の見学者が訪れました。またご存知と思いますが、2010年4月10日から5月15日までトリノで聖骸布の一般公開が決まりました。このことで、これから日本でも興味が沸くことになり、同じような催しと

巡礼を企画するチャンスになります。聖骸布は「百聞は一見にしかず」のものです。講談社から出た『聖骸布の男』という本が、今度ブラジルでポルトガル語に訳されることになりました、また新人物往来社という出版社から、特別歴史読本として『聖遺物』が出ます。その中にコンプリ神父による聖骸布についての最新情報も紹介されます。ご一読を!

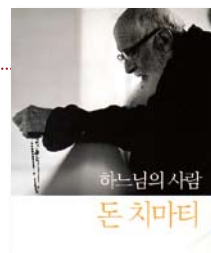


イエズス会ヨゼフ・ピタウ大司教によるテープカット



韓国語のチマッティ伝

韓国でもサレジアン家族のおかげでチマッティ神父に対する信心が広がっています。音楽のCDのほか、チマッティ神父伝も漫画も出版されました。



数多い巡礼

チマッティ神父の墓への巡礼は、教会、修道院、学校のグループが多く、毎月6日10時30分からの記念ミサの参加者も多いです。皆、師の取次ぎを願い、それにより得た神の恵みを発表し、不思議な出来事を報告します。ご存知のとおり、列福されるために聖座に

奇跡のようなものを一つ出す必要があります。それに審査のため証拠書類を添えますが、病気の癒しなら、前後の経過を示す診断書が必要です。私は毎日、チマッティ神父のお墓の前、師の取次ぎを願う方々ために祈っています。

ミサ50周年の祝い

今年は私のミサ50周年記念でした。3月9日の記念日に四谷の聖イグナチオ教会で、続いて調布教会、下井草教会、故郷のヴェローナ、またローマでも友達と

一緒に祝いました。皆さんのお祈りを感謝いたします。自分の使命をいっそう忠実に果たすことができますようにお祈りください。



イタリア、ヴェローナの生まれ育った教会にて



下井草教会にて

皆さんのための祈り

日本で宣教師として働く恵みをいただいて神様に感謝いたします。命ある限り全力を尽くすつもりです。資料館で皆さんをお目にかかることをいつも楽しみにしています。

2008年12月6日 チマッティ資料館 ガエタノ・コンプリ神父